



NPO法人

# 食科協ニュースレター 第234-2号

## 目次

---

- 【食品衛生 時を刻んだ新聞記事 No.006】
- 【食品衛生 時を刻んだ新聞記事 No.007】
- 【食品衛生 時を刻んだ新聞記事 No.008】
- 【食品衛生 時を刻んだ新聞記事 No.009】

NPO法人 食品保健科学情報交流協議会  
運営委員 笈川和男

2-7

---

令和 5年 1月 27日

特定非営利活動法人 食品保健科学情報交流協議会

〒135-0004 東京都江東区森下 3-14-3、全麵連会館 2階 TEL 03-5669-8601 FAX 03-6666-9132

<http://www.ccfhs.or.jp/> E-Mail [NPO2002-fhsinfo@ccfhs.or.jp](mailto:NPO2002-fhsinfo@ccfhs.or.jp)

【食品衛生 時を刻んだ新聞記事 No.006】

2022.12.5 笈川 和男

1985年9月12日 マンズ勝沼工場 有毒ワインすり替え 県の検査ごまかす 山梨日日新聞

山梨日日新聞
昭和60年(1985年)9月12日 木曜日 (創設5年創刊) 第37852号 (日刊)

## 山梨日日新聞

発行所 山梨日日新聞社  
 山梨県北口2-6-10 (〒400)  
 電話・本社(0552)31-3000  
 編集部長 岸野 久  
 東京支社 電話 東京(03)57-154-1541  
 大阪支社 電話 大阪(06)341-1767  
 名古屋支社 電話 名古屋(052)211-0522  
 山梨日日新聞社 1985年

# 有毒ワインすり替え

## 県の検査ごまかす

### マンズ勝沼工場

有毒ワインすり替え事件の中心人物である山梨県勝沼市山梨日日新聞社に、山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。

山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。

山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。

山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。

### 県庁に聞く

## 工作は私が指示

山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。



「工作すれば検査を逃れられると考えた」と、すり替え事実を認めた山梨日日新聞社記者の証言。

### 都留文大が学科新設へ(15面)

石巻工業大学が学科新設へ。千代田、松本の県配行。B.C.も開業。別荘建設。開業の近い出組めの。別荘分けた買物。開業は。阪神にマジック。週刊行事ガイド。県地産産センター特集。

### 証提隠滅で告発を検討

山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。山梨日日新聞社が有毒ワインすり替えを暴露した。

1985年9月12日(社会面) 地に落ちた企業モラル マンズ社平然とウソの説明 山梨日日新聞

おいしい国産果物まで  
あと**395**日  
昭和61年10月12-17日

Amie

# 激震 有罪!

## 地に落ちた企業モラル

### マンズ社 平然とウソの説明

バルクワインの輸入業者であるマンズ社が、オーストリア製のワインからジエチレングリコール(不凍液)が混入していたことが発覚。そのワインを西ドイツから我が国が輸入していた。7月25日 自社の検査で輸入バルクワイン(原材料)にジエチレングリコール混入を深める。

7月26日 ①タンクの移し替えあるいは廃棄処分  
②<営業は親会社>販売済みのワインの極秘回収を始める。

7月30日 M社 県の調査に虚偽の報告  
7月31日 山梨県 M社からワインを収去検査 ジエチレングリコール不検出

1985年春、オーストリアで製造し、西ドイツで輸入したワインからジエチレングリコール(不凍液)が混入していたことが発覚。そのワインを西ドイツから我が国が輸入していた。7月25日 自社の検査で輸入バルクワイン(原材料)にジエチレングリコール混入を深める。

7月26日 ①タンクの移し替えあるいは廃棄処分  
②<営業は親会社>販売済みのワインの極秘回収を始める。

7月30日 M社 県の調査に虚偽の報告  
7月31日 山梨県 M社からワインを収去検査 ジエチレングリコール不検出

8月 2日

山梨県 「ジエチレングリコール入り輸入ワイン県内出回りなし」として安全宣言

8月 8日 M社 新聞に「安全」広告

8月29日

民間の検査機関で、M社の高級ワインからジエチレングリコールを 1.26 g/L 検出

同日 山梨県 M社を検査 高級ワインに輸入バルクワインを混ぜていたことを認める。

7月末の偽装工作（タンク移し替え等）は説明していない。

8月30日 ジエチレングリコール入りバルクワイン混入銘柄を公表。 6 銘柄 総計  
400,485 本（秘密裏に回収できる数ではない）

9月11日 M社幹部（常務ほか） 山梨県に「虚偽工作（証拠隠滅）があった」と報告

私は、M社の頒布会でワインを定期購入。美味しく飲んだが、その中にジエチレングリコール混入したと公表されたワインがあった。我が家には親会社 K社の営業者は来ていない（来たが留守だったのかもしれない）。その後 M社のワインを購入しない。K社の製品も購入しないようにしている。

頒布会なので、K社の営業所等には名簿があったと思う。しかし、公表しないでの回収は無理であった

### 【食品衛生 時を刻んだ新聞記事 No.007】

2022.12.9 笈川 和男

6号の続きです。

1985年10月12日 県、旅館を使い事情聴取 別室では酒食も マンズ社代金立て替え 山梨日日

10月11日発覚

【参考：9月11日 M社幹部（常務ほか） 山梨県に「虚偽工作（証拠隠滅）があった」と報告】

山梨県、9月4日から5日に、旅館を使い泊りがけでM社から事情聴取。M社の社員が少なかった。県職員16人、M社2人。

昭和60年(1985年)10月12日 土曜日 19時



# 県旅館使い事情聴取

## 別室では酒食も

### マンス社 代金を立て替えて替え

【本紙記者の取材】マンス社が、11月11日、12日、13日の3日間、県内各地の旅館に、別室で酒食を供した。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。

マンス社が、11月11日、12日、13日の3日間、県内各地の旅館に、別室で酒食を供した。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。

マンス社が、11月11日、12日、13日の3日間、県内各地の旅館に、別室で酒食を供した。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。

マンス社が、11月11日、12日、13日の3日間、県内各地の旅館に、別室で酒食を供した。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。

マンス社が、11月11日、12日、13日の3日間、県内各地の旅館に、別室で酒食を供した。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。マンス社は、この3日間の別室で酒食を供した旅館は、県内各地に約100軒ある。

### 【食品衛生 時を刻んだ新聞記事 No.008】

2022.12.12 笈川 和男

1999年8月29日 ハヤシからボツリヌス菌 食べた？12歳重体 読賣新聞

「ハヤシライス」は要冷蔵品であり、製造から流通、販売店、家庭への宅配までは冷蔵管理をしていたが、家庭において長期間（夏期8日間）常温保存された後、摂食された。

当該品はレトルト無延伸ポリプロピレンを使用し、レトルト食品と紛らわしい形態をしていた。家庭において保存方法「要冷蔵」を見落とし、常温で保存したと推測された。

製造過程で混入したボツリヌス菌が、家庭において嫌気状態で長時間常温保存したため増殖し、毒素を産生したものと考えられた。  
 同様な事件再発防止対策として、厚生省から「気密性のある容器包装詰めのを要冷蔵食品に係る取扱いについて」(平成11年8月30日 衛食120号)の通知がされた。

1999.8.29 読売

# ハヤシからボツリヌス菌

## 市販品 回収へ 食べた？12歳重体

千葉県柏市で今月上旬、同市内の小学六年生の女兒(12)がボツリヌス菌(A型)による食中毒で意識不明の重体となっていることが二十八日分かった。

同県衛生部が調べたとろ、女兒が食べたと思われる「ハヤシ」の加工食品「ハヤシライス」を製造した静岡県沼津市の食品製造会社「米久」の同種製品からもA型のボツリヌス菌が発見されたため、「同社の製品が原因物質の疑いが強い」として、静岡県に連絡。これを受けて同社は、同日までに回収している三千四百パックについて自主回収を始めた。同製品は関東地方から九州地方で販売されているという。

その後、A型のボツリヌス菌が検出された。女兒は現在も入院中で、意識がないという。

ボツリヌス菌の毒素はA型からD型まであり、A型が最も毒性が強い。吐き気やおう吐、視覚障害などを引き起こすほか、重症の場合には呼吸困難を起して死亡する例もある。毒素は八十度で三十分間以上、百度なら十分以上の加熱で分解するとされている。

同菌による食中毒は、一九八四年に熊本県内で製造された「からしレンコン」で十一人が死亡したほか、九七年には、東京都内の業者が輸入・販売したマレーシア産のオイスターソースから同菌が検出された。また、昨年夏には、イタリア産オリーブ漬けによる食中毒が発生している。

【食品衛生 時を刻んだ新聞記事 No.009】

2022.12.15 笈川 和男

2012年12月19日 従業員からノロ検出 広島弁当食中毒 発症1,574人最悪規模 中国新聞

**中国新聞**  
2012年(平成24年)12月19日(水曜日)

**従業員からノロ検出**

広島弁当食中毒の発症1574人最悪規模

ダイヤス食品広島支社(広島市安佐北区)が製造、販売した弁当による集団食中毒で、広島市保健所は18日、調理担当の従業員7人の便からノロウイルス(小型球形ウイルス)を検出したと発表した。従業員を介して食品が汚染されたとみている。

市保健所によると、発症者数は18日午後2時現在、広島県内の508社・団体の1574人に拡大した。新たな入院患者はいない。市保健所は18日までに、採取した発症者18人と調理に当たった従業員28人の便の検査を終えた。ノロウイルスは発症者17人、従業員7人から検出された。発症者が食べたのは10、11日に販売された弁当。検査用に保存していた弁当からウイルスは検出されなかったものの、市保健所は「従業員の経路で弁当が汚染された可能性が高い」としている。

市に記録が残る1989年以降、市内で発生した集団食中毒で最も発症者数が多かったのは91年の1484人。業者の弁当が原因で、発症者の便から病原性大腸菌が検出された。ノロウイルスが原因の集団食中毒では2008年の749人だった。今回はこれらを上回り、過去最悪の規模となった。

(加納亜弥)

従業員からノロ検出

患者数 2,035人 発生当時ノロウイルス食中毒で、国内最大の食中毒事件であった。12月10日~12日に調製された弁当のうち1日分のみの摂食で発症しており、3日間にわたって汚染が続いていたと考えられた。

発生原因として、次のことが推定された。

- ①感染していた調理従事者トイレを汚染し、そのうえ手指洗浄消毒が不十分であった。
- ②他の調理従事者はトイレで汚染を受けたが、手指洗浄消毒が不十分であった。
- ③ノロウイルスを調理場に持ち込み調理、盛り付け工程で食品を汚染した。
- ④トイレへ行く際にエプロンを外したが、白衣はそのままだったので、白衣等を介して汚染が広がった。